

4. 脳出血

脳血管の発達が未熟な早産児は、急な血流の変化に耐えられずに脳出血を起こすことがあり、特に生後5日ごろまでの急性期は注意が必要です。脳出血を起こすと赤ちゃんは急にぐったりし、痙攣や呼吸障害などの症状がみられます。小さな出血は自然に吸収されて後遺症とあまり関係ありませんが、大きな出血、脳実質への出血、出血後水頭症（脳室という場所に脳脊髄液が過剰にたまり脳を圧迫している状態）では運動機能障害、痙攣、視力・聴力障害といった後遺症を残す可能性が高くなります。出血後水頭症では脳の圧迫をとるために手術が必要になることもあります。



正常

出血後水頭症
脳が内側から圧迫される



5. 脳室周囲白質軟化症

早産児は脳室周囲の血管が十分にできあがっておらず、低血圧などのストレスが生じると、血流が不足しやすい脳室周囲の「白質」という部位に障害を受けます。この部位には主に手足を動かす神経が通っているため、運動障害（脳性麻痺）などの後遺症が起きやすくなります。脳出血とちがい脳室周囲白質軟化症は赤ちゃんの状態変化を伴わないことが多く、いつ起こったのかを特定することは困難です。

NICUを退院する頃の画像検査（頭部MRIや頭部超音波検査）で診断されます。退院後も脳性麻痺の症状に注意し早期のリハビリテーションを検討していきます。

- 大きくなるのか？と毎日心配し泣いていたけど、ちゃんと大きく育ちました。（25週、708g出生、現在3歳）
- 搾乳を2～3時間毎にするのが大変だったけど、毎日成長が早くであっという間の退院でした！（32週、1,492g出生、現在4歳）